

平成30年度

帝京科学大学大学院 理工学研究科

学生募集要項

—— 博士前期課程（修士課程） ——

—— 博士後期課程 ——

目 次

建学の精神	1
大学院入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	1
募集人員	2
出願資格	2
出願期間、試験日、合格発表日	3
出願手続	3、4
選考方法	5、6
合格発表	6
入学手続	6
入学辞退手続	6
平成30年度入学金及び授業料等	7
帝京科学大学大学院概要	8、9、10
研究分野・授業科目及び担当教員	11、12、13、14
領域別教員及びその研究内容	15、16
志願票記入上の注意	17
試験場案内図	18
志望理由書	巻末
修士学位論文要旨・研究経過報告書、研究業績調書、研究計画書	巻末
推薦書〔特別進学（飛び入学）用〕	巻末

個人情報の取扱いについて

出願においてお知らせいただいた個人情報（氏名、住所等）は入学案内、入学試験に付随する業務及び統計的集計を行うために利用します。

この業務の一部は、本学から当該業務の一部を委託した業者（以下「受託業者」という。）にて行うことがあります。

業務委託に当たり、個人情報の保護に関する契約を締結した受託業者に、お知らせいただいた個人情報の全部又は一部を提供することはありますが、帝京科学大学が明示する用途のみの利用であり、その受託業務を超えた利用はありません。

建学の精神

人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する。

大学院入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

博士前期課程（修士課程）

■メディア情報システム専攻

諸刃の剣となり得る情報システムを良く理解し、次の世代を生み出す能力を有する研究者・技術者を育成することを目標としています。この目標に合った学生を受け入れるために、システムデザイン分野、ネットワークシステム分野、マン・マシーンインターフェース分野の3分野のいずれかの分野の基本的知識を身につけている学生を選考します。また、技術的側面のみならず社会的、人間的側面からも情報システムを扱うために、学部卒業学生としてのきちんとした倫理観を備えていることも求められます。

■バイオサイエンス専攻

生物科学の諸分野の基礎的領域とその応用分野である生物工学分野を含む幅広い領域の発展に寄与し得る研究者・技術者を育成することを目標としています。この目標に合った学生を受け入れるために、微生物科学、動物科学、植物科学、分子生物学、生物化学、化学、医療科学等の各分野の基礎知識あるいはこれらの総合的知識を身につけている学生を選考します。また、技術的側面のみならず社会的、人間的側面からも生物試料を扱うために、学部卒業生としてきちんとした倫理観を備えていることも求められます。

■アニマルサイエンス専攻

人間と飼育動物との良好な関係の構築、野生動物の衛生、環境エンリッチメント、生態、保全など、人間と動物との共生に関する教育・研究を通して動物関連の科学や産業の発展に寄与し得る研究者・技術者を育成することを目標としています。この目標に合った学生を受け入れるために、動物看護福祉科学、動物基礎科学、人間動物関係科学のいずれかの分野の基本的知識を身につけている学生を選考します。また、技術的側面のみならず社会的、人間的側面からもアニマルサイエンスを扱うために、学部卒業学生としてのきちんとした倫理観を備えていることも求められます。

■環境マテリアル専攻

生物と環境との関わり、環境を分析し自然と共存していくための科学、環境負荷の少ないすなわち環境に優しい物質の創製など、環境に関する教育・研究を通して、環境関連の科学や工学の発展に寄与する研究者・技術者の育成を目標としています。この目標に沿って、環境科学、環境機能材料、自然環境科学の各分野の基礎知識を身につけている学生を選考します。これら学生には、環境マテリアル専攻の大学院生にふさわしく、学識的側面のみならず社会的、人間的側面からも正しい倫理観を備えていることが求められます。

博士後期課程

■先端科学技術専攻

高度な専門性を有するだけでなく、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者・技術者及び高度な教育・研究能力を兼ね備えた大学教員の養成を目的とした専攻です。これらの目的を達成するため、原則として優秀な成績で修士課程を修了した者（修了予定者を含む。）又はこれらの者と同等以上の学力を有する者を選考します。

1 募集人員

博士前期課程（修士課程）		博士後期課程	
メディア情報システム専攻	15名	先端科学技術専攻	8名
バイオサイエンス専攻	15名		
アニマルサイエンス専攻	15名		
環境マテリアル専攻	15名		

2 出願資格

(1) 博士前期課程（修士課程）

次の各号のいずれかに該当する者

- ① 学校教育法に定める大学を卒業した者及び平成30年3月末日までに卒業見込みの者
- ② 学校教育法の規定により学士の学位を授与された者及び平成30年3月末日までに授与される見込みの者
- ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月末日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月末日までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成30年3月末日までに修了見込みの者
- ⑥ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成30年3月末日までに修了見込みの者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者
- ⑧ 学校教育法の規定により他の大学の大学院に入学した者であって、本学大学院において、その教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- ⑨ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

(2) 博士後期課程

次の各号のいずれかに該当する者

- ① 修士の学位又は専門職学位を有する者及び平成30年3月末日までに取得見込みの者
- ② 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月末日までに授与される見込みの者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月末日までに授与される見込みの者
- ④ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月末日までに授与される見込みの者
- ⑤ 文部科学大臣の指定した者
- ⑥ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者

(3) 出願資格の注意事項

ア 出願資格のうち、博士前期課程（修士課程）③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨及び博士後期課程②、③、④、⑤、⑥によって出願しようとする者は、出願前に書類による個別の入学資格審査を行うため、以下の期間内に書類を千住キャンパス入試・広報課入試係宛に提出してください。

なお、出願資格審査が終了するまで、受理を保留するので、入学検定料は納入しないでください。

- ・ I期：平成29年7月31日（月）～8月4日（金）
- ・ II期：平成30年2月5日（月）～2月9日（金）

イ 社会人又は外国人留学生が出願しようとする場合は、上記アに準じます。

3 出願期間、試験日、合格発表日（試験場はP18を参照してください。）

募集区分	博士前期課程（修士課程）及び博士後期課程		
	出願期間	試験日	合格発表日
I期	平成29年8月28日（月） ～9月1日（金）	平成29年9月8日（金）	平成29年9月14日（木）
II期	平成30年2月26日（月） ～3月2日（金）	平成30年3月9日（金）	平成30年3月15日（木）

4 出願手続

(1) 出願書類

ア 博士前期課程（修士課程）

(ア) 志願票（本学所定用紙）

3cm×3cmのカラー写真（出願前3か月以内に撮影した正面上半身、無帽、無背景のもの）を所定欄に貼付してください。なお、写真の裏面には、志望専攻名及び氏名を明記してください。

(イ) 卒業（見込）証明書

出身大学長又は学部長が作成し、厳封したもの

(ウ) 学部の成績証明書

出身大学長又は学部長が作成し、厳封したもの

(エ) 志望理由書（本学所定用紙）

志望の理由及び将来の研究に対する希望について200字程度にまとめたもの

(オ) 受験承諾書（様式随意）

官公庁、学校、企業等に在職中の者は、所属長の受験承諾書を添付してください。

(カ) 住民票の写し

日本国内に居住している外国人の方は、市区町村で発行された住民票の写し（在留資格・在留期間等が明記されたもの）を提出してください。

イ 博士後期課程

(ア) 志願票（本学所定用紙）

3cm×3cmのカラー写真（出願前3か月以内に撮影した正面上半身、無帽、無背景のもの）を所定欄に貼付してください。なお、写真の裏面には、志望専攻名及び氏名を明記してください。

(イ) 卒業・修士課程修了（見込）証明書

① 修士課程（見込）証明書

② 出願資格⑤、⑥により出願する者は、卒業証明書を提出してください。

※ 上記①、②は、出身大学長又は研究科長が作成し、厳封したもの

(ウ) 成績証明書

① 出願資格①により出願する者は、学部及び大学院修士課程の成績証明書

② 出願資格②、③、④により出願する者は、当該教育課程の成績証明書

③ 出願資格⑤、⑥により出願する者は、学部の成績証明書

※ 上記①、②、③は、出身大学長又は研究科長が作成し、厳封したもの

- (エ) 志望理由書（本学所定用紙）
志望の理由及び将来の研究に対する希望について200字程度にまとめたもの
- (オ) 修士の学位論文等
 - ① 修士の学位論文を提出した者は、学位論文の写し及び修士学位論文要旨（本学所定用紙）を提出してください。平成30年3月に修士課程修了見込みの者は、修士学位論文要旨（本学所定用紙）を提出してください。
 - ② 上記以外の者は、研究経過報告書（本学所定用紙）を提出してください。
※ 上記①又は②に加えて公表論文・研究業績がある場合は、論文等の写し及び研究業績調書（本学所定用紙）を提出してください。
- (カ) 研究計画書（本学所定用紙）
400字程度にまとめたもの
- (キ) 受験承諾書（様式随意）
官公庁、学校、企業等に在職中の者は、所属長の受験承諾書を添付してください。
- (ク) 住民票の写し
日本国内に居住している外国人の方は、市区町村で発行された住民票の写し（在留資格・在留期間等が明記されたもの）を提出してください。

ウ 注意事項

- ① 婚姻等の事由により戸籍と証明書の氏名が異なる場合、戸籍抄本を添付してください。
- ② 外国語で作成されている書類について、公的機関や民間の翻訳会社等の発行する日本語の翻訳（原本）を必ず添付してください。「外国語で作成されている書類」と「日本語の翻訳」の2つが揃っていない場合は、出願を受け付けません。
- ③ 出願に当たっては、あらかじめ本学に連絡の上、研究指導を希望する教員の確認を得てください。

(2) 入学検定料 33,000円

志願票の振込依頼書を使用し、最寄りの金融機関の窓口から振り込んでください。
なお、ATMや電話・インターネット等の通信による支払いはできません。

(3) 出願方法

ア 郵便による出願（出願期間内必着）

提出書類を一括して「大学院出願書類在中」の封筒に入れ、簡易書留速達郵便で送付してください。

イ 直接来学しての出願（願書受付期間・受付時間等にご注意ください。）

提出書類を一括して「大学院出願書類在中」の封筒に入れて提出してください。

- ・ 願書提出場所：千住キャンパス本館4階入試センター
- ・ 窓口受付時間：月曜～金曜 9時～17時、土曜 9時～12時

※ 日曜、祝日及び願書受付期間以外の事務取扱いはしません。

(4) 注意事項

ア 出願後は、志望専攻・領域の変更は認めません。

イ 提出した出願書類及び入学検定料は、一切返還しません。

5 選考方法

(1) 一般選考

ア 博士前期課程（修士課程）

学力試験、面接試験及び書類審査（成績証明書、志望理由書等）を行い、総合的に合否を決定します。

(ア) 学力試験

次の科目について、大学学部卒業程度で出題します。

① 一般科目：英語（全専攻）

② 専門科目

各専攻において共通の基礎的科目及び志望する研究分野に応じた出題をします。

(イ) 面接試験

各専攻において志望する研究分野を中心に、15分程度の面接試験を行います。

(ウ) 試験時間割

時 間	試 験 内 容
9:30	集 合
10:00～10:10	受験上の注意
10:10～11:10	一 般 科 目
11:20～12:50	専 門 科 目
14:00～	面 接

イ 博士後期課程

学力試験、口述試験・面接及び書類審査（成績証明書、志望理由書等）を行い、総合的に合否を決定します。ただし、本学において、平成30年3月に博士前期課程（修士課程）を修了見込みの者には、学力試験を免除します。

(ア) 学力試験

英語について行います。

(イ) 口述試験・面接

修士学位論文又は研究経過報告書及び研究計画書等について行います。

(ウ) 試験時間割

時 間	試 験 内 容
9:30	集 合
10:00～10:10	受験上の注意
10:10～11:10	英 語
14:00～	口述試験・面接

(注) 募集人員の一部については、本学卒業予定者等から別途選考することがあります。

(2) 社会人及び外国人留学生の選考

ア 博士前期課程（修士課程）

出願資格の各号のいずれかに該当する社会人（各種の研究機関、教育機関又は企業等に1年以上勤務する者で、入学後も引き続きその身分を有し、勤務成績が優秀であり、所属長の承諾を受けた者）及び外国人留学生（日本国籍を有しないで、在留資格が「留学」である者）の選考は、面接試験及び書類審査（成績証明書、志望理由書等）を行い、総合的に合否を決定します。

(ア) 面接試験

各専攻において志望する研究分野を中心に面接試験を行います。

(イ) 試験時間割

時 間	試 験 内 容
13:30	集 合
13:50～14:00	受験上の注意
14:00～	面 接

イ 博士後期課程

出願資格の各号のいずれかに該当する社会人（各種の研究機関、教育機関又は企業等に2年以上勤務する技術者又は研究者で、入学後も引き続きその身分を有し、勤務成績が優秀であり、所属長の承諾を受けた者）及び外国人留学生（日本国籍を有しないで、在留資格が「留学」である者）の選考は、面接試験及び書類審査（成績証明書、志望理由書等）を行い、総合的に可否を決定します。

(ア) 面接試験

志望する研究領域のほか、提出された研究計画書等について面接試験を行います。

(イ) 試験時間割

時 間	試 験 内 容
13:30	集 合
13:50～14:00	受験上の注意
14:00～	面 接

(注) 募集人員の一部（外国人留学生）については、日本国外で入学試験を実施し、別途選考することがあります。

6 合格発表

- 合格発表日に、受験者全員に受験票を送付した宛先・志願者本人宛で、選考結果を郵便にて通知します（学内掲示による発表は行いません。）。
- 合格者には合格発表日に、入学手続書類等を郵便で発送します。

(注) 窓口、電話、郵送等による可否結果の照会に関する問合せには一切応じません。

7 入学手続

(1) 手続方法

ア 入学金及び授業料等の納入（本学指定の振込依頼書により、指定期日までに納入してください。）

イ 書類提出〔誓約書、卒業（修了）証明書〕

※ 書類提出の詳細については、合格者へ送付する入学手続要項において指示します。

(2) 手続期限

募集区分	博士前期課程（修士課程）及び博士後期課程
	学費納入期日及び書類提出期日
I 期	平成29年9月22日（金）
II 期	平成30年3月23日（金）

入学金及び授業料等の納入期日までに手続を完了しない場合は、入学の意志がないものとみなし、入学許可を取り消します。詳細については、合格者へ送付する入学手続要項において指示します。

なお、I期の合格者に限り、入学金及び授業料等の分割納入が可能です。合格発表日から指定期日までに入学金を納入し、平成30年2月15日（木）までに残額を納入することもできます。

8 入学辞退手続

入学手続を完了した者で、入学を辞退する者は、平成30年3月31日（土）正午（12時）までに以下へ電話連絡し、入学辞退を申し出てください。その時点をもって入学辞退が確定します。後日、本学から送付する「入学辞退届」に必要事項を記入し、「入学許可書」とともに返送してください。返送された書類を確認した上で、入学金を除く金額を返還します。

なお、上記期日を過ぎての入学辞退申出については、納入金を返還しません。

【入学辞退の連絡先】 帝京科学大学 千住キャンパス 入試・広報課入試係

TEL：03-6910-3706（直通）

受付時間：月曜～金曜 9時～17時、土曜 9時～12時

※ 日曜、祝日及び年末年始〔12月29日（金）～1月3日（水）〕は事務取扱いはしません。

9 平成30年度入学金及び授業料等

博士前期課程（修士課程）

（単位：円）

区 分	学外出身者		学内出身者		備 考	
	入学手続時	年 額	入学手続時	年 額		
入 学 金	310,000	310,000	210,000	210,000	入学時のみ	
授 業 料	400,000	800,000	400,000	800,000		
実 験 実 習 費	85,000	170,000	85,000	170,000		
施 設 設 備 費	100,000	200,000	100,000	200,000		
冷 暖 房 費	20,000	40,000	20,000	40,000		
学生傷害*	2,430	2,430	2,430	2,430	入学時のみ	
保 険 料 アニマルサイエンス専攻のみ	3,690	3,690	3,690	3,690		
合 計	917,430	1,522,430	817,430	1,422,430		
	アニマルサイエンス専攻のみ	918,690	1,523,690	818,690	1,423,690	

博士後期課程

（単位：円）

区 分	学外出身者		学内出身者		備 考	
	入学手続時	年 額	入学手続時	年 額		
入 学 金	310,000	310,000	免除	免除	入学時のみ	
授 業 料	400,000	800,000	400,000	800,000		
実 験 実 習 費	85,000	170,000	85,000	170,000		
施 設 設 備 費	100,000	200,000	100,000	200,000		
冷 暖 房 費	20,000	40,000	20,000	40,000		
学生傷害*	3,620	3,620	3,620	3,620	入学時のみ	
保 険 料 アニマルサイエンス領域のみ	5,380	5,380	5,380	5,380		
合 計	918,620	1,523,620	608,620	1,213,620		
	アニマルサイエンス領域のみ	920,380	1,525,380	610,380	1,215,380	

※学生傷害保険料は、変更となる場合があります。

受験及び修学上の特別配慮について

身体機能の障がいや疾病・疾患等により、受験及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、遅くとも出願を希望する募集区分の出願開始日の2週間前までに、帝京科学大学入試係までお問い合わせください。本学の対応が決定後に、出願していただきます。

なお、要望等に対応できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

また、不慮の事故等により、出願後に特別な配慮が必要となった場合も速やかにご連絡ください。

帝京科学大学 入試係 03-6910-3706(直通)

帝京科学大学大学院概要

本学大学院理工学研究科は、学部教育の基礎の上にとって、科学・技術の教育研究を通して広く人類の福祉に貢献することを目的とします。

1 設置の趣旨と教育課程

本学は、平成2年に開学し、平成6年3月に第1回の卒業生を社会に送り出しましたが、本学の教育・研究の中核である先端科学・技術の諸分野は、その発展が著しく、より高度の教育・研究は、大学院を設置して行わざるを得ず、平成6年4月に学部組織の上に、さらに大学院理工学研究科の修士課程を設置しました。大学院博士後期課程においては、さらに広い視野と実践的特色を持った、高度の先端科学・技術の専門技術者及び研究者の養成を目的とします。そのためには、それぞれの分野の研究を、より一層深化させる必要がありますが、さらにそれ以上に、今後の先端科学・技術の新しい内容の発展が、それら諸分野の学際的、融合的研究・開発に期待されているという点に着目し、その方向に教育・研究を推進するために、修士課程の専攻を博士後期課程では一本化し、「先端科学技術専攻」としました。

そこで修士課程を前期2年の博士前期課程とし、新たに博士後期3年の課程を持つ区分制の博士課程を平成8年4月に設置しました。

なお、平成25年4月から中学校教諭専修免許状（理科）及び高等学校教諭専修免許状（理科）を取得できる課程を設置しています。

研究科	博士課程	
	前期課程（2年） （修士課程）	後期課程（3年）
理工学研究科	メディア情報システム専攻 バイオサイエンス専攻 アニマルサイエンス専攻 環境マテリアル専攻	先端科学技術専攻

理工学研究科の組織

大学院博士前期課程（修士課程）

メディア情報システム専攻

システムデザイン
ネットワークシステム
マン・マシンインターフェース

バイオサイエンス専攻

生物工学
生体機能学
生物有機化学
医療科学

アニマルサイエンス専攻

動物看護福祉科学
動物基礎科学
人間動物関係科学

環境マテリアル専攻

環境科学
環境機能材料
自然環境

大学院博士後期課程

先端科学技術専攻

（メディア情報システム領域）

情報科学
マン・マシンインターフェース

（バイオサイエンス領域）

生物科学
生物工学

（アニマルサイエンス領域）

動物科学
人間動物関係学

（環境マテリアル領域）

環境科学
エコマテリアル

(1) 博士前期課程（修士課程）

- ① メディア情報システム専攻では、各種情報処理の基礎的能力を十分に修得させた上で、システムデザイン分野、ネットワークシステム分野及びマン・マシンインターフェース分野におけるより高度な知識と能力を持つ研究者・技術者の育成ができるよう教育課程を編成しています。
- ② バイオサイエンス専攻では、生物科学の諸分野の基礎的領域とその応用分野である生物工学分野を含む幅広い領域で柔軟に教育を行い、バイオサイエンスの基礎的素養と応用技術を持った人材の育成ができるよう教育課程を編成しています。
- ③ アニマルサイエンス専攻では、人間と飼育動物との良好な関係の構築、野生動物の衛生、環境エンリッチメント、生態、保全など、人間と動物との共生に関する教育・研究を通して、動物関連の科学や産業の発展に寄与し得る研究者・技術者の育成ができるよう教育課程を編成しています。
- ④ 環境マテリアル専攻では、生物と環境との関わり、環境を分析し自然と共存していくための科学、環境負荷の少ないすなわち環境に優しい物質の創製など、環境に関する教育・研究を通して、環境関連の科学や工学の発展に寄与する研究者・技術者を育成するための教育課程を編成しています。

(2) 博士後期課程

先端科学技術専攻は、次の4領域で構成されます。

- ① メディア情報システム領域では、情報科学の分野で、ロボティクス、ネットワーキング、センシング、カオス力学系の制御などに関する高度な専門的知識と研究能力を有する研究者・技術者の育成ができるよう教育課程を編成しています。
- ② バイオサイエンス領域では、細胞増殖、代謝、遺伝子発現などの高次の生命現象を解明し、その優れた機能を利用したこれからの新しい先端科学技術を研究・開発し、それを医療、材料、情報、環境などの諸分野に応用を可能にする幅広い高度な能力を有する研究者・技術者の育成ができるよう教育課程を編成しています。
- ③ アニマルサイエンス領域では、飼育動物と野生動物の行動・健康・生態・保全及び人間生活への動物介在に関する先端的な教育・研究を通じて、次世代における人間と動物との共生に貢献できる高度な研究者・技術者育成のための教育課程を編成しています。
- ④ 環境マテリアル領域では、自然環境の科学、環境を分析する科学をはじめ、環境調和型物質の開発と環境負荷の少ない物質創製プロセスの開発を次世代の先端科学として捉え、これらの教育・研究を通して、持続可能な未来社会の構築に寄与し得る研究者・技術者を育成するための教育課程を編成しています。

2 履修及び研究指導

(1) 博士前期課程（修士課程）

- ① 専攻により若干の相違がありますが、各専攻の専門分野に対応した多くの授業科目を準備し、必修科目である輪講及び特別実験の他に、修了に必要な30単位のうち約1/2を講義科目で修得させ、それぞれの専門分野に関係した授業を、余裕を持って選択し得るよう工夫しています。
- ② 各専攻に共通して、輪講が第一から第四まで置かれていますが、これは各指導教員が単独又は共同して、文献の講読指導を行うものであり、各専門分野に関係した研究雑誌の論文等を中心に討議を行うことにより、学生の研究能力を高めることを目的とします。
- ③ 各専攻に共通して、特別実験が第一、第二と置かれていますが、これは、学内の実験設備を用いた実験もありますが、テーマによっては、関連の他大学・研究機関や企業等において学生が行う実験・研究も積極的に取り入れます。

(2) 博士後期課程

- ① 各分野の講義授業科目は全て選択で2単位です。研究指導教員の指導のもとで、特別輪講4単位、特別実験8単位を含め、各領域に用意されている授業科目2科目（4単位）以上、合計16単位以上を修得します。
- ② 指導教員については、各専門分野の主たる指導教員のほかに、指導教員との相談の上、関連領域・部門から副指導教員を選び、研究上の指導・助言を得ることにし、将来の各領域・部門の研究内容が、学際的視野により新しい創造的内容を生む可能性を持たせています。
- ③ 博士後期課程では、上記授業科目の履修は研究活動と不可分離のものです。学生は主指導教員の責任ある指導を受けると同時に、副指導教員からも助言を受け、各自の研究を進めます。その研究の進行に伴い、その成果を中間で取りまとめる努力をさせ、それぞれの関係専門領域の学会に発表し、学会誌に掲載し得るよう努力させます。その結果3年次中頃までには、2篇以上の研究発表論文が投稿され受理されているよう指導します。

3 大学院研究センター

本学では、文部科学省の「私立大学学術研究高度化推進事業」（ハイテク・リサーチ・センター整備事業）の拠点のひとつとして選定され、バイオテクノロジー研究センターと未来材料研究センターをそれぞれ開設しました。

(1) バイオテクノロジー研究センター

平成12年春に開設以来、バイオテクノロジー研究センターは「遺伝子」をターゲットにした基礎研究中心の第1期につづき、分子、細胞、生物個体の3レベルで「バイオホメオスタシス」の研究を行った第2期のプロジェクトを平成20年3月に終了しました。現在は、その設備を利用して生命系に関わる先端研究・開発のための拠点としての役割を担っています。

(2) 未来材料研究センター

未来材料研究センターは、「環境適合未来材料及びシステムの構築と構造解析」、「生体分子・粒子を制御する活性を通じて人間環境を改善する高分子生化学材料の合成」のプロジェクトを終了しています。現在は、その設備を利用して未来材料に関わる研究・開発のための拠点としての役割を担っています。

研究分野・授業科目及び担当教員

博士前期課程（修士課程）

メディア情報システム専攻

授業科目については、平成30年度開講予定科目を記載しています。

分 野	授 業 科 目	担 当 教 員
シ ス テ ム デ ザ イ ン	造 形 と デ ザ イ ン 方 法 論	教 授 木 村 龍 平
	シミュレーションとグラフィックス	教 授 小 室 元 政
	オブジェクト指向プログラミング特論	教 授 斉 藤 幸 喜
ネ ッ ト ワ ー ク シ ス テ ム	ネ ッ ト ワ ー ク シ ス テ ム 論	教 授 永 沼 充
	ネ ッ ト ワ ー ク セ キ ュ リ テ ィ	教 授 松 本 敏 浩 教 授 小 林 和 生
マン・マシーンインターフェース	ロ ボ ッ ト 工 学 特 論	教 授 永 沼 充
	セ ン サ ー ・ 感 性 工 学 特 論	教 授 木 村 龍 平
	デ ィ ジ タ ル 信 号 処 理 特 論	教 授 内 田 恭 敬
共 通	メ デ ィ ア 情 報 シ ス テ ム 輪 講 第 一	各 教 員
	メ デ ィ ア 情 報 シ ス テ ム 輪 講 第 二	
	メ デ ィ ア 情 報 シ ス テ ム 輪 講 第 三	
	メ デ ィ ア 情 報 シ ス テ ム 輪 講 第 四	
	メ デ ィ ア 情 報 シ ス テ ム 特 別 実 験 第 一	
	メ デ ィ ア 情 報 シ ス テ ム 特 別 実 験 第 二	

* 担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

バイオサイエンス専攻

授業科目については、平成30年度開講予定科目を記載しています。

分野	授業科目	担当教員
生物工学	バイオプロセス工学特論Ⅰ	教授 松岡 浩
	バイオプロセス工学特論Ⅱ	教授 松岡 浩
	食品科学特論Ⅰ	教授 小島 尚
	食品科学特論Ⅱ	教授 小島 尚
	分子生物学特論Ⅰ	准教授 柴田 安司
	分子生物学特論Ⅱ	准教授 柴田 安司
生体機能学	免疫学特論	未定
	生体反応特論	教授 河原井 昌裕
	植物組織培養学特論Ⅰ	教授 東 克己
	植物組織培養学特論Ⅱ	教授 東 克己
生物有機化学	生物有機化学特論Ⅰ	教授 山口 十四文
	生物有機化学特論Ⅱ	教授 山口 十四文
	遺伝子化学特論Ⅰ	教授 岩瀬 礼子
	遺伝子化学特論Ⅱ	教授 岩瀬 礼子
医療科学	神経科学特論	教授 萩原 宏毅
	リハビリテーション科学特論	教授 昇 寛
共通	バイオサイエンス輪講第一	各 教 員
	バイオサイエンス輪講第二	
	バイオサイエンス輪講第三	
	バイオサイエンス輪講第四	
	バイオサイエンス特別実験第一	
	バイオサイエンス特別実験第二	

* 担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

アニマルサイエンス専攻

授業科目については、平成30年度開講予定科目を記載しています。

分野	授業科目	担当教員
動物看護福祉科学	代謝生理学特論	教授 大辻 一也
	動物看護学特論	講師 中田 真琴
	動物福祉特論	教授 佐藤 衆介
	動物保健衛生学特論	教授 八木 行雄
	臨床動物行動学特論	准教授 加隈 良枝
動物基礎科学	動物行動生理学特論	講師 今野 晃嗣
	動物行動神経科学特論	教授 近藤 保彦
	動物行動学特論	教授 藪田 慎司
	動物行動生態学	教授 森 貴久
	陸生哺乳類学特論	准教授 島田 将喜
	水生哺乳類学特論	教授 森 恭一
	社会行動と生物学	教授 藪田 慎司
	動物基礎科学特殊講義	未定
人間動物関係科学	環境教育特論	教授 古瀬 浩史
	動物園動物学	教授 並木 美砂子
	動物介在介入Ⅰ	教授 花園 誠 助教 山本 真理子
	動物介在介入Ⅱ	准教授 木場 有紀 准教授 濱野 佐代子
	動物介在人間工学特論	教授 小川 家資
	共生文化論	教授 井腰 圭介
共通	動物科学特論一	教授 森 恭一 教授 藪田 慎司 教授 並木 美砂子 教授 花園 誠 教授 古瀬 浩史 教授 森 貴久 准教授 島田 将喜
	動物科学特論二	教授 佐藤 衆介 教授 八木 行雄 准教授 木場 有紀 准教授 濱野 佐代子
	アニマルサイエンス輪講第一	各 教 員
	アニマルサイエンス輪講第二	
	アニマルサイエンス輪講第三	
	アニマルサイエンス輪講第四	
	アニマルサイエンス特別実験第一	
	アニマルサイエンス特別実験第二	

* 担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

環境マテリアル専攻

授業科目については、平成30年度開講予定科目を記載しています。

分野	授業科目	担当教員
環境科学	環境物理化学特論	教授 落合 鍾一
	環境有機化学特論	教授 釘田 強志
	環境無機化学特論	講師 山際 清史
	環境分析学特論	准教授 和田 龍一
	大気環境学特論	准教授 和田 龍一
	水環境化学特論	教授 仲山 英之
環境機能材料	エコマテリアル特論	教授 落合 鍾一
	分光学特論	教授 仲山 英之
	材料物性特論	教授 小杉 俊男
	力学物性特論	教授 小杉 俊男
	機能性分子特論	教授 釘田 強志
	クリーンエネルギー特論	講師 山際 清史
自然環境	環境共生学特論	教授 岩瀬 剛二
	生物間相互作用学特論	教授 岩瀬 剛二
	植物環境生理学特論	教授 渡邊 浩一郎
	植物代謝機能学特論	教授 渡邊 浩一郎
	環境野生動物学特論	准教授 篠原 正典
	保全遺伝学特論	准教授 篠原 正典
	物質循環生態学特論	准教授 橋本 慎治
	水圏環境生態学特論	准教授 橋本 慎治
	環境生態学特論	准教授 下岡 ゆき子
	人類学特論	准教授 下岡 ゆき子
共通	環境マテリアル輪講第一	各 教 員
	環境マテリアル輪講第二	
	環境マテリアル輪講第三	
	環境マテリアル輪講第四	
	環境マテリアル特別実験第一	
	環境マテリアル特別実験第二	

* 担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

領域別教員及びその研究内容

博士後期課程 先端科学技術専攻

領域	部 門	教 員	研 究 内 容
メディア情報システム	情報科学	教授 永 沼 充	光情報科学、ネットワークシステム
		教授 小 室 元 政	非線形力学系の分岐理論、カオス力学系の制御と応用
	マン・マシーン インターフェース	教授 永 沼 充	人とロボットの相互作用に関する解析とその応用
		教授 内 田 恭 敬	センサー、ディスプレイ用デバイス及びマン・マシーンインターフェース応用制御技術
		教授 木 村 龍 平	感性情報科学、画像情報処理応用
		教授 斉 藤 幸 喜	オブジェクト指向プログラミング
バイオサイエンス	生物科学	教授 山 口 十四文	真核細胞のDNA複製やテロメア合成に影響を及ぼすヌクレオシド・ヌクレオチドなどの有用な類縁化合物の設計と合成、それら類縁化合物の酵素や細胞レベルでの作用機構や応用に関する研究
		教授 岩 瀬 礼 子	遺伝子発現を特異的に制御する核酸医薬を指向した、修飾オリゴヌクレオチドの合成とその機能性。遺伝子発現制御を光誘導する機能性修飾核酸の創出。遺伝子診断を指向した、蛍光修飾核酸の合成とその遺伝子検出機能
		教授 東 克 己	植物生理学的、分子生物学的アプローチによる、植物の組織培養を経由した個体再生技術の研究と開発。植物の成長及び恒常性の維持に関する生体分子の検索及び機能解明
	生物工学	教授 松 岡 浩	代謝工学的手法を用いる細胞の代謝過程の最適化、廃棄物からのアルコール発酵生産、バイオリアクターの生産性向上
		教授 小 島 尚	食品廃棄物等の未利用及び低利用食品素材の食品機能性についてゲノム解析を活用することによる効率的な有効性・安全性評価に関する応用研究
アニマルサイエンス	動物科学	教授 大 辻 一 也	コンパニオンアニマルの栄養学を化学的側面から解明し、肥満防止や栄養的問題から引き起こされる各種の病理現象との関係を改善せるに資する研究
		教授 森 貴 久	動物の個体レベル以上で観察される生物学的な特徴について、行動学的・生態学的・進化的な観点から解明する。
		教授 近 藤 保 彦	神経内分泌と嗅覚コミュニケーションとの関連から、動物の行動メカニズムを解明する。
		教授 藪 田 慎 司	動物の社会的相互交渉に用いられる行動を分析し、その機能、進化、原因メカニズム（動機付けや情動メカニズム）を解明する。
		教授 森 恭 一	水界や島嶼地域に生息する動物の生態解明と、資源学や保全学の観点からそれらの動物がおかれている現状や課題解決策を究明する。

* 教員については、退職等により変更になる場合があります。

領域	部 門	教 員	研 究 内 容	
アニマルサイエンス	動物科学	教授 八木行雄	動物飼養環境の衛生状態の評価と効果的な改善方法の検討及び動物細菌・原虫感染症の病態形成機序の解明とそれに基づく疾病制御法の開発	
		准教授 島田将喜	長期フィールドワークに基づき、野生動物のインタラクション、社会的ネットワークを明らかにし、その発達上、進化上の重要性を探求する。	
	人間動物関係学	教授 小川家資	医療・教育現場、職場における動物介在の効果を人の生理・心理変化から解明する。また、治療的乗馬が身体障害者の身体機能へ及ぼす効果を明確化し、より効果的な治療的乗馬を追究する。	
		教授 花園 誠	動物福祉とその実践方法及び一次産業以外における動物活用法の研究。特に動物福祉を基盤とした動物介在システムの開発とその実用化に関する研究	
		教授 並木美砂子	動物と人間との関係について歴史的文化的観点から振り返るとともに、これからの共存関係の構築について、広い視野から考える。	
		教授 佐藤衆介	産業動物における情動（心理学的手法）、ストレス（生理学的手法）及び自然性（行動学的手法）の評価から、福祉的飼養管理技術研究を行う。	
	環境マテリアル	環境科学	教授 小杉俊男	音波・振動特性（弾性・内部摩擦）、具体的には、結晶性固体材料強度の基礎としての転位と点欠陥の相互作用の研究、アモルファス材料の内部摩擦の研究、薄膜材料の弾性・内部摩擦の測定と評価法の研究
			教授 岩瀬剛二	生態系保全及び地域資源保全を目指した植物と菌類の菌根共生現象の実態解明、マツタケ等食用菌根菌の人工栽培技術開発
教授 渡邊浩一郎			高等植物による環境汚染物質の吸収と移行の解明、ファイトレメディエーション利用可能植物種の探索と環境浄化への応用に関する研究	
准教授 橋本慎治			水圏における食物連鎖を通じた炭素・窒素循環の解明、水質などの環境変化や気候変動に対する水生生物の応答に関する研究	
准教授 篠原正典			主に行動観察による野生動物の基礎生態に関する研究。また、それらを通じた人と動物の関係に関する研究	
エコマテリアル		教授 落合鍾一	地球温暖化を阻止するためにもエネルギー変換の高効率化が不可欠であり、超耐熱金属間化合物を含む新素材の研究開発を行う。	
		教授 仲山英之	超臨界流体の、環境負荷の少ない溶媒としての、利用分野の新規開拓と、そのことを目的とした溶媒特性の分子レベルでの研究	
		教授 釘田強志	新規触媒開発によるグリーンケミストリープロセスの確立、シリカメソ多孔体への有機分子触媒の固定化と高選択性固体触媒の開発	

* 教員については、退職等により変更になる場合があります。

試験場案内図

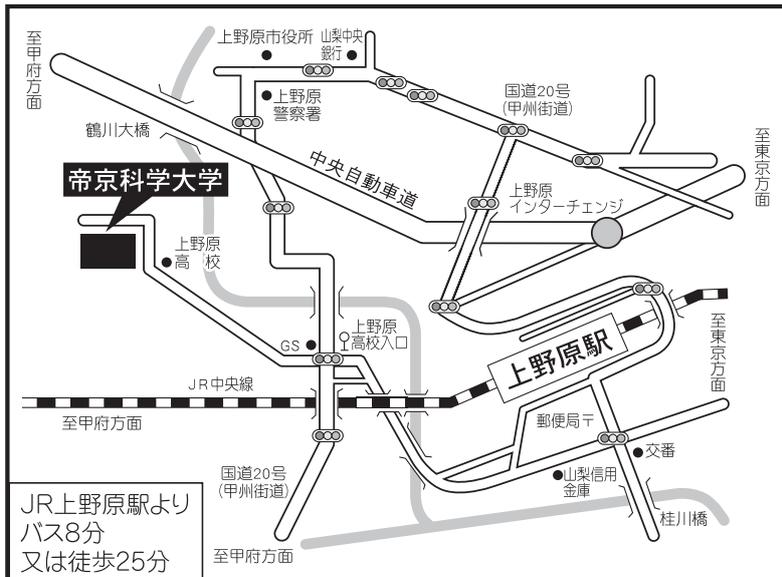
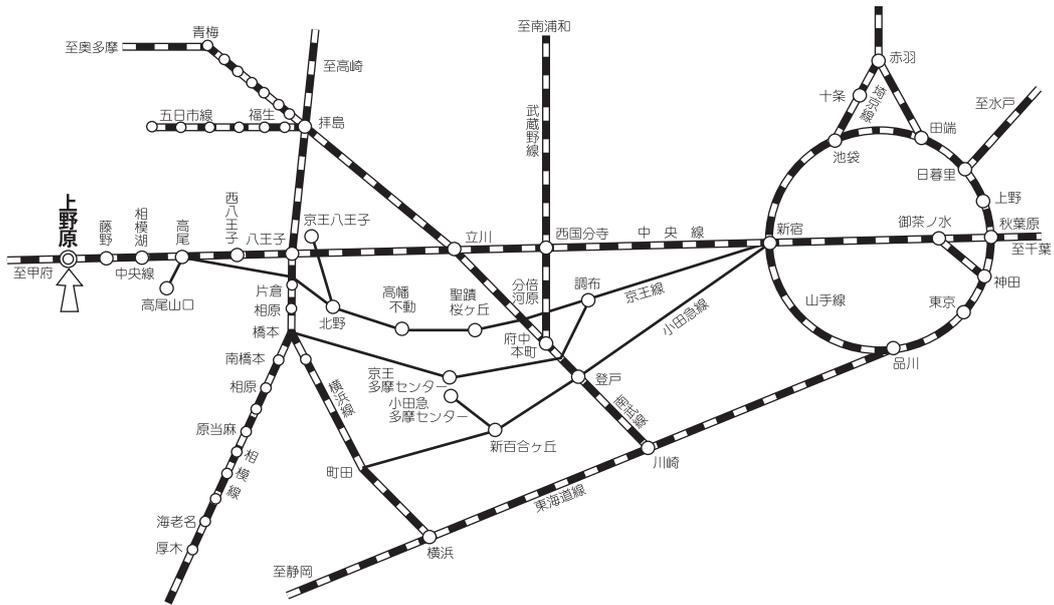
帝京科学大学

〒409-0193

山梨県上野原市八ッ沢2525

交通…JR中央線上野原駅下車、大学直通バス8分

試験場への交通案内図



研究業績調書

No. _____

(帝京科学大学 大学院理工学研究科)

※受験番号

フリガナ	
氏名	
特許論文、 研究報告、 の 名称	
発行又は 発表の 年月	
発行所、 発表雑誌等 又は 発表学会等の 名称	
共同著者 又は 発表者 名	
備考	

キリトリ線

- ◎ 学術論文等は、別刷又は写しを添付してください。
- ◎ 2枚以上になる場合には、本用紙をコピーして使用してください。
- ◎ ※印の欄には記入しないでください。

研究計画書

(帝京科学大学 大学院理工学研究科)

No. _____

※受験番号

志 望 領 域 名	フリガナ	
	氏 名	

(400字程度・横書き)

[Grid area for writing the research plan]																			
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

キリトリ線

- ◎ 400文字程度でまとめたものを作成してください (パソコン等で入力したものを印刷して貼付する場合は、必ず枠内に収まるようにしてください)。
- ◎ 2枚以上になる場合には、本用紙をコピーして使用してください。
- ◎ ※印の欄には記入しないでください。

お問合せ先

帝京科学大学
千住キャンパス 入試・広報課入試係

〒120-0045 東京都足立区千住桜木二丁目2番1号

TEL : 03-6910-3706 (直通)

FAX : 03-6910-3802

公式ウェブサイト : www.ntu.ac.jp/